



2021年(令和3年)1月号

中野区立江原小学校 学校便り

校長 根来 郁明 児童数512名

学校教育目標

自立し、共に生き、平和を求める子
『かしこく』『やさしく』『たくましく』

明けまして おめでとうございます

校長 根来 郁明

1. 丑年

令和3年(2021年)が始まりました。今年は丑年(うしどし)です。十二支は、「草木が育ち、花を咲かせ、実を付け、実を落とす。実を落とした草木は枯れ、次の世代に生命をつないでいく…」という植物の循環する様子を表しています。「丑」という字は、手の指をかぎ型に曲げて、糸をよったり編んだりする様子を表した象形文字で、つかむ、からむという意味があります。そこで、芽の中で種子が伸びきらない状態を表す「丑」が、十二支の2番目にくるそうです。

令和3年を迎え、江原小学校は、新たな成長に向け、これまで積み上げてきた教育活動をきちんと整理し、先を急がず、目の前のことから一步一步じっくり着実に、子どもたちの力(学力、豊かな心、体力)を積み上げていきたいと思えます。

2 一年の計は元旦にあり

「一日の計は朝にあり、一年の計は元旦にあり、一生の計は勤にあり、一家の計は身にあり」
一日の計画は朝に、一年の計画は年始めに立てなさい。そして、一生の計画は仕事をまじめにすることで決まり、一家の将来は生き方で決まる。

諸説ありますが、明(中国)で編纂された『月令広義』という、年間行事や儀式についての解説書の中の「四計」の項に由来するそうです。

着任して9か月が経ち、新たな気持ちで新年の目標を考えました。

一つ目は、「学校の常識を変える」ことです。「学校の常識は、社会の非常識」と揶揄されることもあります。今までの常識にいつまでもこだわり続けるのではなく、社会の変化を敏感に察知し、「新たな常識」を柔軟に取り入れられる学校を目指していきます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、昨年まで当たり前できていたことが、できなくなった今だからこそ、江原小の課題や問題点をみんなで考え、みんなで江原小の進むべき道を切り拓いていく必要があります。子どもたちはもちろん、江原小の一員である皆さん(教職員・保護者・地域)から具体的なアイデアをたくさんいただき、それらを十分に踏まえた上で、江原小の新しい常識(判断基準)を作っていきます。

二つ目は、「働き方改革を推進する」ことです。中野区立学校では、出退勤システム(静脈認証)や時間外留守番電話の導入等、教職員の長時間労働の解消、教職員が心身共に健康で働ける職場を目指しています。質の高い授業を行い、一人ひとりと関わる時間を確保していくためには、「子どもと向き合う時間」を確保していく必要があります。しかし、「子どもたちのために」という使命感や責任感は、教職員の仕事を雪だるま式に増やし、長時間労働を助長しています。教職員に与えられた時間やエネルギーが無限ではない以上、睡眠時間や自由時間を削り、体調をくずしてまで働くことは、学校のためにも子どもたちのためにもなりません。働く場所として、「学校(職場)に行くことが楽しい」と思えるような学校(職場)にしていきたいです。

令和3年(2021年)も、「江原小で学んでよかった」「江原小で学ばせてよかった」と感じてもらえるよう努力していきます。引き続き、江原小学校の教育活動へのご理解ご協力をよろしくお願ひいたします。